般 若 心 経

麗しく、また聖なる知恵の完成者に礼したてまつる

聖なる観自在菩薩が彼方に至る知恵を究めつつあったとき、彼が高みから見おろすと、目にはいるのは五つの蘊まりばかりであり、それらも実体は空であることを看破した。

ここでは、おおシャーリプトラよ。形象は空であり、そしてまさに空そのものが形象である。空は形象と異ならず、形象は空と異ならない。およそ形を持ったものはすべて空であり、空なるものはすべて形象である。同じことが、感覚、知覚、衝動、そして意識についても真である。ここでは、おおシャーリプトラよ、一切のダルマは空の様相を呈している。それらは生み出されることも止められることもなく、汚されることも清浄であることもなく、足りないことも完全であることもない。

それゆえに、おおシャーリプトラよ。空において、そこにはいかなる形象もなく、感覚もなく、知覚もなく、衝動もなく、意識もない。眼も、耳も、鼻も、舌も、体も、心もない。形もなく、音もなく、匂いもなく、味もなく、触れられるものも、心の対象もない。視覚組織の領域から心意識の領域に至るまでことごとく何もない。そこにはいかなる無知もなければ無知の消滅もなく、衰弱や死から、衰弱や死の消滅に至るまでことごとく何もない。そこにはいかなる苦しみも、苦しみの原因も、苦しみの停止も、苦しみをなくす道もない。いかなる認識もなければ、いかなる達成も無達成もない。

それゆえに、おおシャーリプトラよ。菩薩が知恵の完成に依って、思考の被覆なしに住するのは、彼の無達成のたまものである。思考の被覆の不在のもとで、彼は何をも恐れず、心を転倒させるものを克服しており、そして最後にはニルヴァーナ（涅槃）を達成する。過去・現在・未来の三世にブッダとして現れる一切の人々も、知恵の完成に依ったがために、無上の、正しい、そして完璧な悟りに目覚めるのだ。

それゆえに、般若波羅蜜多を大いなる真言、大いなる知恵の真言、無上の真言、無比の真言、一切の苦しみを鎮めるものとして知るべきである。それは真実である。なぜならば、間違いなどあり得ないのだから。
般若波羅蜜多によって、この真言は次のように説かれた。

往けり、往けり、超えて往けり、全て超えて往けり。なんという目覚めよ。嗚呼！

これで完全な知恵の心髄が完成する。